

「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」受賞作品制作レポート

pm 04:29

九州大学大学院 芸術工学府芸術工学専攻 コミュニケーションデザイン科学コース

田島 俊貴

この度はこのような賞をいただき大変光栄に思います。今回応募した作品「pm 04:29(ヨミ：ピーエム ゼロヨン ニーキュウ)」は、女性ボーカルによるステレオ 2ch のバンド録音作品です。ここでは企画意図や制作内容に関してご説明致します。

1. 作品制作における企画意図

近年、Apple Music や Spotify といったいわゆる「ストリーミング」のサービスにより、音楽聴取者が CD を買うことなく気軽に音楽を楽しむ手段が拡がりつつあります。こういったサービスは、音楽の作り手の側に立って考えても、気軽に自らの作品を配信できるという利便性を提供していると言えます。これは作品の販路や流通手段に限られるアマチュアミュージシャンにとって自らの作品を多くの人に届けるには最良の方法であるとも言え、今回は地元福岡で活動するバンドの音源配信を目標に作品制作を行いました。

2. 作品概要

今回応募した作品は、ステレオ 2ch で制作された“アルミポリス”というバンドによる楽曲の録音作品です。ピアノが中心になって作るリズムの変化や後半の転調などを用いて聴き手を飽きさせない構成となるよう意識して作曲されました。Bメロやサビで多用されるコーラスも聴きどころの一つになっています。

- 曲名 : pm04:29
- 演奏者 : アルミポリス
- 録音・ミキシング : 田島 俊貴 (九州大学大学院修士 2 年)
- サンプルレート : 44.1kHz
- ビット深度 : 16bit
- 作品制作期間 : 2019 年 2 月 18 日、19 日
- フォーマット : ステレオ 2ch
- 演奏時間 : 3 分 55 秒

3. レコーディングに関して

レコーディングは本学内の録音スタジオ(図 1)にて行いました。本学の録音スタジオは、普段は音響工学の実験やピアノの授業のレッスンなど、多目的で用いられていますが、夏季休業期間と春季休業期間は学生に対し録音スタジオを解放し、自身の録音技術を向上させる取り組みを行なっています。本作品はこのスタジオ解放期間に制作されたものです。



図1：録音スタジオ

録音のみならず，小規模のライブイベントから，学生のピアノレッスンまで，幅広い用途で使用されるスタジオ。

録音は基本的なバンドのレコーディングを踏襲する形で、オーバーダブにより行いました。レコーディングの際、最も気を配ったのは演奏者が演奏しやすい環境づくりです。先に述べたように、本作品は外部のレコーディングスタジオではなく学内の録音スタジオで行いましたが、施設全体の老朽化などもあり、設備に関しては他のスタジオに比べると多少劣る点がありました。しかし、学内設備であることを活かし、演奏者の友人を積極的にスタジオに招待したり、コントロールルーム内に遊び道具を持ち込むなどして、全体的に賑やかな雰囲気になることを心がけました。この作品は少し物悲しげな雰囲気の曲ですが、その中でも演奏者が伸び伸びと演奏している様子を感じられるかと思えます。

4. ミキシングに関して

ミキシングは本学施設内のリスニングルーム(図2)にて行いました。



図2：リスニングルーム

壁面の残響可変扉の開閉により，部屋の残響時間が制御可能な部屋。今回は残響可変扉を全閉して利用した。このときの残響時間は約0.3秒である。

ミキシングにおいて目指したのは「拡がり感がありながらも芯のあるサウンドメイク」です。「拡がり感のある音」と「芯のある音」の両者は相反する事項のようにも思えますが、前者は主に高音域をカバーするドラムのシンバル類やピアノ、ギターなどが担い、後者は低音域をカバーするバスドラムやベースが担うことでこれを実現させました。

具体的な方法としては、単なるトラックのパンポットによる音像定位だけでなく、ステレオイメージャープラグイン「Waves S1」をピアノ、ドラムのバストラックを中心に多用したことや、マスタリングの段階で低域の音像を狭めて、高域の音像を拡げる処理を行なっています。

また、「聴き手の聴取形態」に関しても特に注意を払いました。本作品は、最終的にはストリーミングサービスへの配信を目指したのですが、その際、主な聴き手はこれらのサービスを利用する比較的若い世代であることを想定しました。さらに聴取の方法として音響設備の整った高価なスピーカーよりは、PC やスマートフォンのスピーカーやイヤフォンなどを用いて聴かれる場合が多いと仮定し、実際にミキシングの段階でイヤフォンやPCのスピーカーからも再生してモニターを行うなどの工夫をしました。本コンテストへの提出音源は、コンテスト向けにリミックス、リマスタリングを施していますが、その際は設備の整った環境で聴かれることを想定し、リスニングルーム内のスピーカーのみを主に使用しています。

さらに、ストリーミングサービス特有の「ラウドネスノーマライゼーション」によるレベル処理の影響も最小限になるようラウドネスメーターの値に特に気を配りミキシングを行いました。

5. 自己総評

基本的に自身と演奏者が思い描いていた完成図に近いものができたと自負していますが、各楽器のサウンドメイクに関して、制作者は楽器の演奏経験がギターしかないため、その他のパート（特にベース）の音作りはかなり苦戦しました。

ミキシングなどのポストプロダクションに携わる以上、必ずしも全ての楽器が弾ける必要はないにせよ、その楽器が持つ音の特徴は常に意識する必要があると学びました。制作の場の中で、その楽器に一番詳しいであろう各パートの演奏者と密接なコミュニケーションを取り、両者の間でゴールとする音を共有することを意識したいと考えています。

6. おわりに

まずは、ありそうでなかなか無いこのような学生向けのコンテストを開いてくださった日本オーディオ協会の皆様、自分の作品を評価していただいた審査員の皆様、そして何より録音の機会を与えてくださった演奏者の方々に感謝したいです。本当にありがとうございました。

今回の優秀企画賞という賞は、どのような意図を持った上で作品制作を行ったかという点を評価されて受賞することが出来ました。しかし、他の賞を受賞された皆さんの作品はどれも素晴らしく、特に録音技術に関しては自分の未熟さや知識不足を痛感しました。

このコンテストへの参加をきっかけに、目的意識を持って作品制作にあたることの大切さを学びました。残り少ない学生生活、今回の経験を生かして精進してまいります。

7. 使用機材一覧

- マイクロフォン, DI
 - (Kick) SHURE Beta 52 A
 - (Kick) AKG d112
 - (Snare, Tom, Guitar) SHURE SM57
 - (HiHat) RODE NT3
 - (Overhead, Guitar) AKG C414
 - (Room) Neumann KM184
 - (Bass, Piano) COUNTRYMAN Type85
 - (Vocal) Neumann U87ai

- プリアンプ
 - AMEK BB100

- PC, DAW, オーディオインターフェース
 - PC : Macbook Pro (Retina, 13-inch, Late 2013)
 - DAW : Steinberg Cubase 8 Artist
 - オーディオインターフェース(REC) : ZOOM TAC-8
 - オーディオインターフェース(MIX) : Universal Audio Apollo Twin DUO

- モニターヘッドフォン, モニタースピーカー
 - モニターヘッドフォン/イヤフォン : SONY MDR-CD900ST, SHURE SE215SPE
 - モニタースピーカー : GENELEC 8050A, GENELEC 1038B, ADAM A3X

執筆者プロフィール



田島 俊貴 (たじま としき)

1995年 埼玉県生まれ。AES 学生会員。

2014年4月 九州大学 芸術工学部 音響設計学科 入学

2018年4月 九州大学大学院 芸術工学府 芸術工学専攻 入学

2020年3月 同校卒業(予定)